

令和3年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 S S H事業を継承する「世界をリードする科学技術人材育成事業」などの取組を活かすとともに、「教育課程研究事業」の継続・推進による質の高い授業を行い学力を向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成するとともに、積極的に地域に貢献し信頼される学校づくりを行う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価 (1月27日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点 次年度の課題と改善策	
1	【現状】 学習意欲は高く、生徒会活動や委員会活動、学校行事、部活動など、コロナ対策をしながら学校生活全般に積極的に取り組んでいる。 【課題】 次世代を担うリーダーとしての素養を意識させ高い志を持たせて、コロナ禍の時代にも柔軟に対応できる人材となるよう、学校生活に主体的に取り組む生徒の育成を目指す。	主体性を持ち自ら考え行動できる次世代リーダーの育成	①生徒が主体的に学習活動に取り組めるような工夫や改善 ②生徒会活動や各種委員会活動(出版・保健・美化・図書・文化・体育・生活)、学校行事(文化祭・体育祭など)への自主的な取組の促進 ③部活動における顧問と生徒との目標の共有化を通じた志や心の育成 ④社会をリードし地域貢献できる人材育成に向けた地域連携、ボランティア活動への取組	①授業や朝学習・補習に主体的に取り組んだか(生徒アンケートより検証) ②生徒会や委員会活動、学校行事の計画・運営状況。コロナ対策を施して実施した結果の生徒満足度(行事アンケート等により検証) ③部活動指導計画と生徒の取組状況や活動成果の共有化(顧問アンケート等により検証) ④地域団体や小中学校との連携状況。自主的なボランティア活動の取組状況	①学習への取組状況は、頑張っており勉強していると回答した生徒は昨年度とほぼ同じ71%である。自習室や図書館などを利用して朝、昼休み、放課後など主体的に取り組む生徒は今年度も多く見受けられた。成績優良者は昨年度比微増となった。 ②コロナ禍で中止となった学校行事もあったが、実施できた行事満足度は高い。中止となった行事でも計画・準備などへ主体的に取り組んでおり、次年度への引き継ぎのための活動も行った。 ③部活動顧問アンケートを実施。今までの活動状況を踏まえて生徒が取組を提案し顧問と内容を決める部もあり、全部活動で目標共有化はされており、生徒が主体的に取り組んでいる。 ④コロナ禍のなか中止となった活動も多かったが、五輪関係行事、小学校や福祉施設との連携行事などのボランティアをはじめ、様々な地域連携にも取り組んだ。特に荻野今子の冊子作成に関わる活動はテレビ・新聞・ネット・市報など数多く取り上げられた。	B	主体的に学習に取り組む態度を育成するため、授業改善や調査問題の工夫が一層必要である。科学的思考力育成のため、集団討論等の場面を増やしていく必要がある。生徒総会や各委員会活動についてはリモートも活用しつつ、学校生活に主体的かつ柔軟に取り組む態度を育成する。
2	【現状】 「世界をリードする科学技術人材育成事業」「教育課程研究事業(大学進学指導拠点校)」に継続して取り組み質の高い授業を実践している。 【課題】 指定事業の活用などにより、次世代社会やコロナ禍などの困難に立ち向かえる、社会に不可欠な思考力・判断力・表現力等を知識・技能とともに身につけられる授業改善をさらにすすめる。	授業改善の推進	①新学習指導要領の観点別評価に対応する授業準備や授業改善への継続的研究(企画委員会・各教科・教務部) ②生徒の主体性や思考力・判断力・表現力の育成に資する授業実践の活用(研修会や年次研修、公開授業週間、「教育課程研究事業」の活用) ③「世界をリードする科学技術人材育成事業」や人文科学探究等を活用した探究活動の充実と内容の深化 ④ICT活用委員会を核として、コロナ禍においても対応可能なICT機器の効果的な活用促進(各学年・各教科・各分掌・教職員間など)	①講師を招聘した教員研修の実施、委員会や教科等での研究状況 ②校内や校外での研修会や他校での研究授業への参加回数、年次研修の実施状況や公開授業週間での教員相互による授業研究の状況 ③生徒の探究成果発表を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実践できているか ④タブレットやプロジェクターなどICT機器の利用や教材等のデータ共有による授業やHR、職員間での活用状況	①講師を招聘して観点別評価研修会を実施し、各教科や教育課程委員会、ワーキンググループを中心に研究を進めた。 ②コロナ禍のなか校外研修への参加は若干名となったが、初任者・5年次・中堅(10年次)・20年次研修者があり、節目の研修に学校全体での研修としても取り組めた。教員相互の授業見学週間も各学期1回計6週間計画して取り組んだが、活発であったとは言えない状況である。 ③「世界をリードする科学技術人材育成事業」はリモート実施となったが大学教授や他校生徒と理系に関する学習に取り組んだ。探究活動でも生徒個人がテーマを設けて探求しポスターセッションなど相互発表しあう活動に取り組んだ。 ④特別教室等へもICT機器を新規導入し、補習や生徒発表で活用。今年度、1年全員購入のiPad活用満足度は68.5%で分散登校時も高評価、家庭学習の状況把握もできた。教職員間や生徒連絡での情報共有等の迅速化、授業での利用などGoogleClassroomを積極的に活用しICT化は着実に進んでいる。	A	観点別評価を組織的に実施していく。授業見学週間の実施法や活用法については継続的に検証する。「世界をリードする科学技術人材育成」に多くの生徒が参加し興味関心を高める指導を継続する。意見や考えを適切に言語化できる力を身につけさせるためにタブレット等を活用した研修会・指導方法の研究を進める。ICTを活用した授業に全教員が取組めるよう研修会やコンテンツ共有等を進める。
3	【現状】 生徒一人一人に対するきめ細かな指導により、難関大学等へ多くの合格者を輩出している。一方で難関校への一般受験者数が減少している。 【課題】 第一志望校を見据え、一般受験での進路実現を目標にさせ更なる進学実績の向上を目指す指導を学校全体で共有し実践する必要がある。	進路指導の充実と進学実績の向上	生徒の第1志望を踏まえつつ、目標校の早期決定を促す ①きめ細かな進路指導(進路指導部・各学年・各教科)により、生徒に寄り添った進路相談や課業日(放課後等)、長期休業などでの多彩な補習の実施 ②文理の偏らない総合的な学力を伸ばさせる指導のなかで、入試対策の内容にもつながる教科指導 ③進路指導に係る最新情報の収集、情報共有(進路指導部)	第1志望の進路実現50%以上 現役合格目標: 国公立 60名 早慶上理 ICU・G-MARCH 計80名 ①進路選択につながる講演会等の実施、模試を活用した指導状況、土曜学習開放の利用者数増加 ②各教科研修会、共通テスト対策の研究会等への参加及び情報共有による指導 ③大学新入試の情報収集と生徒への提供、対応策の検討と実施、学校全体での情報共有状況	公募等推薦で国公立大学合格者7名、1月の大学入学共通テストに95%の3年生が受験。 ①大学説明会6回、卒業生講話7回実施。東大訪問、埼玉大訪問、講義、県主催セミナー等への希望参加者増。土曜学習開放参加者数3.4倍増加465名(昨年度比)。主体性のある学ぶ意欲ある生徒が増加。模試の事前学習指導、事後の振り返り学習指導の実施。 ②入試情報は随時各教科共有。共通テスト対策研究会は各教科が参加、教科内で情報共有し指導に活かした。具体的志望校決定者73.1%(11.9P増)、志望校を決め早めの対策に取り組む生徒増加。 ③コロナ禍により生徒自身が大学訪問等による情報収集が難しい事例もあり、生徒の利活用のための書籍整備を随時行った。学年に応じたガイダンスを実施し、進路情報を提供した。	A	進学指導については、入学時より早めの対策と指導(今後も取り組む。進路保証を見据えた授業改善を学校全体で進める。共通テストを含めた新入試に向けた指導法や分析を共有し次年度へ活かす体制をつくる。東大・京大・お茶大など様々な大学との連携、SSH高校等他校との連携など研究交流や高度で専門的な学習機会を引き続き提供して進路意識を高めさせたいと感じる。
4	【現状】 自らを律して行動している生徒が多く、地域からも高い評価を得ている。 【課題】 全ての生徒の資質を伸ばすため寄り添った支援により、品格ある熊女生として生き生き学校生活等を過ごす姿を、地域住民や中学生にPRし、評価を一層高めて生徒募集に繋げることが必要である。	生徒指導、心のケアの充実 広報活動の工夫改善	①校内支援委員会を中心に、SC・SSW・関係機関や教職員・保護者との連携により、面倒見のよい学校としての教育相談体制を高める ②組織的な整容指導と挨拶運動の実施回数と生徒の状況、生徒を巻き込んだ制服検討委員会の実施 ①本校主催の学校説明会や学校見学会、進学フェアでの本校の特色PR、創立110周年記念事業への取組 ②学校ホームページや学校案内を活用した情報発信(全教職員)、生徒自身が生き生きと過ごす姿を地域住民や中学生へ見ってもらう機会を増やす	①定期訪問によるSC、関係機関と連携してのSC・SSWの活用状況と生徒の満足度 ②整容指導、挨拶運動の実施回数と生徒の状況、生徒を巻き込んだ制服検討委員会の実施 入試倍率への反映 ①参加者の増加・満足度、周年行事の取組に対する反響 ②学校ホームページの更新数やアクセス数の増大、学校説明会等や部活動での地域発表の実施・大会等での活躍状況	①SC・SSWが計34日間来校し、延べ80組以上の生徒・保護者がカウンセリング等を受けた。相談を希望し継続する生徒も多く、立ち直る生徒も増え有効に活用している。 ②挨拶運動はコロナ禍で年度当初のみ実施。日頃から整容や挨拶の声掛けを行っている。制服検討委員会も発足し検討を開始。 1月発表の志願倍率1.07倍で昨年度よりアップ ①5回の見学会は申込開始同時に定員超え。申し込めなかった希望者に個別対応。アンケート満足度も高い。周年行事も大成功。 ②HPアクセス数は昨年度比63.3%増加、月平均約11万件。記事更新数も昨年度比75.7%増、今年度当初より325件の書き込み。生徒の活躍や学校の状況などの記事を、校長日誌をはじめ担当教職員たちが、ほぼ毎日更新している。	A	SC等を継続し不登校気味生徒が登校できるよう支援する。生活委員会と協力し身だしなみ・挨拶運動を継続。制服検討委員会で規定の見直しを進める。 入試倍率のアップを目指す。広報資料やホームページを常に見直して魅力発信を継続させる。好評であった生徒を前面に出した説明会をさらに工夫して実施する。

実施日	令和4年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

アンケート結果を活用し、改善内容をアピールし生徒の主体性が生きる高校生活を実感させたい。
 ○頑張っており勉強している生徒71%との回答は内容を分析し一層の向上を期待する。コロナ時代、変化をさせていく所と変えてはいけない所、不易流行のバランスが大事だと思う。コロナ禍で学習・学校行事が例年とは異なり残念ですが、それぞれ生徒が自主的に活動している姿が見えて良かった。○熊女の部活動の素晴らしいところは中学生の励みになっている。○小中学校との夏休み補習授業は楽しみにしており熊女への憧れになっている。平日も含めて定期的な連携を望む。

○1年生iPad導入は素晴らしい。中学と更なる連携を望む。○授業のICT化を迅速に進めており評価するが、使うのが目的でなく手段として活用し対面授業のプラスαとして捉えてほしい。○これからは、どう学び、どう考え探究し、将来どう生かすか多様な価値観や文化を理解しグローバル化に対応できるスキルを身につける指導の継続をしてほしい。○他校や大学との良い関係を模索し、生徒の学びに活かしてほしい。○タブレット利用も他校と違う特色を出せばアピールできる。デジタルとアナログの扱い方をマッチさせた指導方法を確立すれば生徒の力がつく授業改善につながると思う。

○私学に負けない進学・進路指導の実績を積み重ねる計画的な進路意識高揚に向け、進路相談技術や授業力向上をさらに進めてほしい。○大学説明会の回数や卒業生講話などきめ細かな指導を行っている成果が具体的な数字に表れ素晴らしい。卒業後活躍されている沢山のOGを活用した情報発信など更なる向上を期待する。○保護者側からも生徒が将来何になりたいかというキャリアビジョンを考える機会を常に与えて頂きたいと思う。○コロナ禍で活動制約がある中でも、キャリア教育のペースがよくできており将来の職業や志望校を早めに決める対策に入っていると感じる。

○生徒メンタルヘルス対策は早期対応や関係者間の連携が重要であり、常駐SCなどによる相談体制の構築を県へ要請してほしいと思う。○挨拶運動が以前のように実施できれば、挨拶の声掛けに協力したい。○制服規定の見直しも時代に則した早めの対策が必要かと思う。○発信方法や卒業生の活用等もさらに検討し、将来の夢を実現させる高校であると地元へ伝えてほしい。○ホームページのアクセス件数や校長先生など先生活の毎日更新、報道等掲載数も多く素晴らしい。今後も熊女の良さを発信して熊谷市の誇りある学校として期待します。